

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習 I	PC①/PC②/PC③		11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美／成木 智子／渋谷 美智	必修	1				

### 授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学に必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、I（知性）を養う。

### 授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業に必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

### 授業計画

- (1) オリエンテーション(大学生としての姿勢)  
(2) 言語 1
- オリエンテーション(図書館の利用方法について)
- (1) 言語 2  
(2) オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
- (1) 言語 3  
(2) キャンパスライフ(クラスでの自己紹介)
- (1) 言語 4  
(2) キャンパスライフ(相談)
- (1) 社会 1  
(2) キャンパスライフ(課外活動について)
- (1) 社会 2  
(2) キャンパスライフ(課外活動について)
- (1) 社会 3  
(2) キャンパスライフ(課外活動)
- (1) 社会 4  
(2) スタディスキル(受講)
- (1) 数学 1  
(2) スタディスキル(理解と表現 1)
- (1) 数学 2  
(2) スタディスキル(理解と表現 2)
- (1) 数学 3

- (2) キャンパスライフ(今後の学修について)
- 13 (1) 数学 4  
(2) キャンパスライフ(学生相談)
- 14 (1) 確認試験 1  
(2) スタディスキル(理解と表現 3)
- 15 (1) 確認試験 2  
(2) スタディスキル確認演習

### 授業の方法

演習形式

### 準備学修

webで参照すること。

### 課題・評価方法、その他

リメディアル 50% (平常点70% 定期試験30%)  
後半学習50% (平常点70% eラーニング30%)

### 欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

### テキスト

一般常識リメディアルテキスト (育仲社)  
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック (ナカニシヤ出版)

### 留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習 II	ET①/ET②/ET③		11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
小野 礼子／佐伯 瑠璃子／吉野 美智子	必修	1				

### 授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学に必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

### 授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

### 授業計画

- (1) 言語 1  
(2) 今学期の目標を設定する。
- (1) 言語 2  
(2) 共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- (1) 言語 3  
(2) 共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- (1) 言語 4  
(2) 共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- (1) 社会 1  
(2) 共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- (1) 社会 2  
(2) レポート作成:参考文献様式の復習。
- (1) 社会 3  
(2) レポート作成:参考文献様式の復習と間接引用のやり方。
- (1) 社会 4  
(2) レポート作成:間接引用のやり方。要約とは。
- (1) 数学 1  
(2) レポート作成:要約をする。
- (1) 数学 2  
(2) レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
- (1) 数学 3  
(2) レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。

- (1) 数学 4  
(2) Kaisei English and Tourism Festival
- 13 (1) 確認試験 1  
(2) レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
- 14 (1) 確認試験 2  
(2) レポート作成:教員からの添削をもとにレポートを完成する。
- 15 (1) 確認試験 3  
(2) 教員からの添削をもとにレポートを完成し、提出する。

### 授業の方法

演習形式

### 準備学修

テキストでしっかりと、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

### 課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

### テキスト

一般常識リメディアルテキスト (育仲社)

### 留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	PC①/PC②/PC③		11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美／成木 智子／渋谷 美智	必修	1				

### 授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学に必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、I（知性）を養う。

### 授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、資格免許を取得するための実習について、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

### 授業計画

- 1 (1) 言語1  
(2) オリエンテーション
- 2 (1) 言語2  
(2) キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 3 (1) 言語3  
(2) キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 4 (1) 言語4  
(2) キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 5 (1) 社会1  
(2) スタディスキル(教学カルテ入力について)
- 6 (1) 社会2  
(2) キャリアデザイン(社会意識1)
- 7 (1) 社会3  
(2) キャリアデザイン(社会意識2)
- 8 (1) 社会4  
(2) キャリアデザイン(社会意識3)
- 9 (1) 数学1  
(2) キャリアデザイン(社会意識4)
- 10 (1) 数学2  
(2) スタディスキル(リサーチ1)
- 11 (1) 数学3  
(2) スタディスキル(リサーチ2)
- 12 (1) 数学4

(2) スタディスキル(リサーチ3)

- 13 (1) 確認試験1  
(2) 社会人への一歩(今後の学修について)
- 14 (1) 確認試験2  
(2) スタディスキル(リサーチ4)
- 15 (1) 確認試験3  
(2) アカデミックスキル確認演習

### 授業の方法

演習形式

### 準備学修

テキストでしっかりと、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

### 課題・評価方法、その他

リメディアル50%（平常点70% 定期試験30%）  
後半学修50%（平常点60% eラーニング30% 教学カルテ10%）

### 欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

### テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育伸社）  
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

### 留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とし、欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト20クリアをすること。教学カルテも評価対象とする。

### 教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp  
オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅰ	ET①/ET②/ET③/ET④		11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／佐伯 瑠璃子／酒井 新一郎／白井 昭彦	必修	1				

### 授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史についての理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために、人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学び、並行し行われるキャリアプログラムと合わせ、各自の考えを持ち、内面的に自らを磨き自身のキャリアデザインを磨く。

### 授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉を、グループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつけていく。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムから社会で働くこと・社会との関係について考え、自身の将来に意識を向けていく。授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

### 授業計画

- 1 海星学とは
- 2 KAISEIパーソナリティについて
- 3 キャリアプログラム①社会を知る
- 4 キャリアプログラム②「社会で働く」
- 5 キャリアプログラム③「職種・業界」
- 6 キャリアプログラム④学科の学びとキャリア
- 7 ポートフォリオ(学生カルテ)①とeラーニング
- 8 ポートフォリオ(学生カルテ)②とeラーニング
- 9 海星を学ぶ① [K:思いやり]
- 10 海星を学ぶ② [A:自律]
- 11 海星を学ぶ③ [I:国際性]
- 12 海星を学ぶ④ [S:奉仕]
- 13 海星を学ぶ⑤ [E:倫理]
- 14 海星を学ぶ⑥ [I:知性]
- 15 ポートフォリオ(学生カルテ)

### 授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレゼンテーションなど授業によってさまざまな形で行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法、その他

- ①各教員から課題が与えられる。フィールドバックの方法は教員によって異なる。
- ②出席点30%、レポート・小テスト・発表など40% eラーニング30%

### 欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

### テキスト

プリント使用

### 留意事項

eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

### 教員連絡先

saeki@kaiei.ac.jp ・ sakai@kaisei.ac.jp ・ miyazoe@kaisei.ac.jp ・ shirai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	e		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	必修	2	公立保育所保育士、私立保育園保育士			

### 授業の到達目標

保育実践研究や保育に関する文献講読をし、討議を行い、保育・教育実習での経験等から、自分が興味のあるテーマを探求する。文献講読をしていく中で、要約し考察することができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とE（倫理）を養う。

### 授業の概要

様々な保育現場での実践研究に関する文献講読をし、分担してレジュメ作成をし、発表する。話し合いの場を設け、気づきや理解を深めていく。実践例等から各自が興味関心のある事例を模索する。先行文献の選定の仕方等を学び、各自が注目しているテーマについて、調査し、発表を行い、卒業研究への方向性を決めていく。

### 授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 保育実践研究の文献講読(1)
- 3 保育実践研究の文献講読(2)
- 4 保育実践研究の文献講読(3)
- 5 保育実践研究の文献講読(4)
- 6 保育実践研究の文献講読(5)
- 7 個人研究のリサーチ(1)
- 8 個人研究のリサーチ(2)
- 9 個人研究のリサーチ(3)
- 10 個人研究のリサーチ(4)
- 11 個人研究のリサーチ(5)
- 12 個人研究の発表(1)
- 13 個人研究の発表(2)
- 14 個人研究の発表(3)
- 15 まとめ 演習Ⅱに向けて

### 授業の方法

プレゼンテーションとディスカッションを中心とする。文献講読のための発表やディスカッションを通して、気づきや考察を深めることができるようにする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法、その他

- ①課題レポートや振り返りシートの提出を求める。授業内にフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

### テキスト

必要に応じて紹介する。

### 参考図書

授業中に随時紹介する。

### 留意事項

主体的に課題に取り組み、自ら進んで研究に取り組むこと。

### 教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

### 授業の到達目標

家族研究の基礎を学び、卒業研究のテーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

演習Ⅰに引き続き、家族研究のための基礎知識を学ぶ。調査、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成などを通して、家族やその生活についての理解を深める。

### 授業計画

- 1 現代家族の問題
- 2 先行研究を学ぶ 1
- 3 先行研究を学ぶ 2
- 4 先行研究を学ぶ 3
- 5 先行研究を学ぶ 4
- 6 先行研究を学ぶ 5
- 7 先行研究を学ぶ 6
- 8 調査・研究の報告 1
- 9 調査・研究の報告 2
- 10 調査・研究の報告 3
- 11 調査・研究の報告 4
- 12 調査・研究の報告 5
- 13 調査・研究の報告 6
- 14 調査・研究の報告 7
- 15 まとめ

### 授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき2点減点する。

### テキスト

なし。

### 参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

### 留意事項

「現代家族関係論」を履修しておくことが望ましい。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、 スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

### 授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

### 授業の概要

卒業研究の作成に向けての文献の収集・要約・調査などを行う。自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、共同研究を通じて必要な研究法・手続きについて学び、最後に自分の研究テーマと研究計画の設定を試みる。要約文は毎回提出とする。

### 授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 共同研究発表の準備
- 3 共同研究発表の準備
- 4 共同研究発表の準備・反省会
- 5 各自のリサーチ発表1
- 6 各自のリサーチ発表2
- 7 各自のリサーチ発表3
- 8 研究法・手続きについての話し合い1
- 9 研究法・手続きについての話し合い2
- 10 各自のリサーチ発表4
- 11 各自のリサーチ発表5
- 12 各自の研究計画の立案と発表4
- 13 各自の研究計画の立案と発表5
- 14 卒業研究発表・質疑応答の練習
- 15 まとめ

### 授業の方法

共同研究の発表後、各自で論文のリサーチ・要約・発表を実施し、論文作成に必要な研究法や手続き、調査を実際に体験する。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法、その他

共同研究への取り組みの状況と、毎回の提出課題を評価の対象とする。

### 欠席について

欠席は1回につき5点、遅刻は2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

### テキスト

受講生の提出する論文の要約文を元に文献講読を実施するため、テキストはその都度適宜紹介することとする。

### 参考図書

適宜紹介する。

### 留意事項

課題は毎週提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

### 教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	e		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	必修	2	公立保育所保育士、私立保育園保育士			

### 授業の到達目標

卒業研究の作成に向けて、研究テーマを決定し、文献の収集、先行研究の読解、要約、調査等を行う。卒業研究の研究構想と計画について発表を行い、質疑応答を通して、互いに理解を深める。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）を養う。

### 授業の概要

卒業研究の作成に向けて、演習Ⅰでの個人研究の発表を通して、考察し、研究テーマを決定する。

研究に必要な文献の収集、先行研究の読解、要約等を行い、リサーチする。卒業研究の研究構想と計画について各自発表の準備を行う。途中経過を発表し、双方向で意見交換を行い、発表をよりよいものとする。

### 授業計画

- 1 演習Ⅱにおけるオリエンテーション
- 2 演習Ⅰでの発表についての意見交換を行う(1)
- 3 演習Ⅰでの発表についての意見交換を行う(2)
- 4 演習Ⅰでの発表についての意見交換を行う(3)
- 5 研究構想と計画、文献、資料に関する指導(1)
- 6 研究構想と計画、文献、資料に関する指導(2)
- 7 研究構想と計画、文献、資料に関する指導(3)
- 8 研究構想と計画の検討(1)
- 9 研究構想と計画の検討(2)
- 10 各自の研究構想と計画の進捗状況の報告(1)
- 11 各自の研究構想と計画の進捗状況の報告(2)
- 12 研究構想と計画の立案と発表・質疑応答(1)
- 13 研究構想と計画の立案と発表・質疑応答(2)
- 14 研究構想と計画の立案と発表・質疑応答(3)
- 15 まとめ

### 授業の方法

プレゼンテーションとディスカッションを取り入れ、双方向の意見交換を行う。研究テーマ決定後、研究構想と計画について各自発表の準備を行

う。途中経過を発表し、様々な意見を聞き、発表に必要な研究法や手続き、調査についても考えを深め、発表できるようにする。

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法、その他

平常点70% 定期試験30%

### 欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

### テキスト

必要に応じて紹介する。

### 参考図書

授業中に随時紹介する。

### 留意事項

主体的に課題に取り組み、自ら進んで研究に取り組むこと。提出物は期限を守ること。

### 教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（造形表現）	①/②	17601	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
森 晴美	選択	1	公立幼稚園教員、私立保育所保育士		

### 授業の到達目標

乳幼児の造形表現遊びを指導するための理論と保育実践例を学び、自らの表現力を高める。教材や用具の扱い方の基礎基本を理解し環境を構成する力や作品を読み取る力、保育指導案を立案し実践する力を身に付ける。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

### 授業の概要

造形表現における乳幼児の発達と特徴について詳述する。造形表現で扱う材料用具の基礎基本事項と技法について演習を行い、鑑賞活動を通して感性をより高める。教材研究を継続して行い、保育指導案作成のポイントを学び、実践力を身に付ける。造形表現に使う材料を自ら収集し、それらを使って模擬保育を行う。授業での制作物の一部は地域や学内の子育ての支援活動に活かす。

### 授業計画

- 1 領域「表現」のねらいと内容、乳幼児の造形表現の意義について
- 2 造形表現における乳幼児の発達と他領域との関連
- 3 情報機器、視覚教材の活用法及び保育指導案の構成と展開
- 4 地域や美術館との連携、小学校教育への接続
- 5 園行事やごっこ遊び、お話の世界と造形表現
- 6 様々な技法や身近な材料、自然物を使った楽しい造形表現
- 7 模擬保育と評価及び反省
- 8 まとめを行ってから試験をする

### 授業の方法

講義と実習を中心とする。学修のまとめとして模擬保育を行い学び合いの機会をもつ。

### 準備学修

Webを参照すること。

### 課題・評価方法、その他

- ①製作遊びの作品提出、鑑賞レポート、シミュレーションシート、収集した教材の提出、保育指導案の作成と実践を課題とする。講義においてフィードバックを行う。

②平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

### テキスト

樋口一成『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』2018年（株）萌文書林

### 参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

### 留意事項

身近な素材や自然に触れる経験を積むように努めること。

### 教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育原理		17607	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士、私立保育園保育士		

### 授業の到達目標

- 1 保育の意義について理解する。
- 2 保育所保育指針について基本的知識を得る。
- 3 保育内容と方法についての基本的知識を得る。
- 4 保育の制度・思想についての基本的知識を得る。
- 5 保育の現状と未来について、自分なりに考えをまとめ、発言できる。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

- 1 保育・幼児教育に携わる者に求められる基本的知識を得ていながら、保育・幼児教育の根幹をなす原理を理解する。
- 2 現代における保育・幼児教育の社会的役割を理解する。
- 3 現代における子育て支援について理解を深める。

### 授業計画

- 1 保育の意義
- 2 保育の目的
- 3 保育と子ども理解
- 4 保育の内容
- 5 保育の方法
- 6 保育の計画と評価
- 7 保育と子育て支援
- 8 子どもの健康と安全
- 9 保育者の専門性と資質向上
- 10 保育の歴史(1)
- 11 保育の歴史(2)
- 12 多様な子どもの理解と保育
- 13 学校や地域との連携のなかで行う保育
- 14 保育に関わる法律と制度
- 15 これからの保育の課題と展望

### 授業の方法

講義を主とするが、グルーブトークを取り入れる。毎回、前週の講義の振り返りを行い、確認テストを適宜行うことで知識の定着を図る。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法、その他

平常点30% 課題レポート20% 定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

### テキスト

「アクティベート保育学01 保育原理」ミネルヴァ書房

### 参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説書」  
内閣府・文部科学省・構成労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

### 留意事項

授業で学んだことを毎回整理をし理解すること。

### 教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・人間関係			17629	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士、私立保育園保育士			

## 授業の到達目標

乳幼児期における子どもの人間関係づくりの基礎を学ぶ。幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づき、戦後から現代までの保育に係る「人間関係」の変化とその捉え方を理解する。さらに、今回の改訂で重視されている地域子育て支援センターの役割や保育者の使命について理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）の育成を目指す。

## 授業の概要

乳幼児期は心身ともに触れ合う社会的、情動的コミュニケーションが重要な時期である。生まれた直後から養育者に抱かれ、体の温もりを感じながら、コミュニケーションし、人間関係の最所の発達課題である愛着や信頼を獲得していく。発達するにつれて、生活空間を広げ、幼稚園等施設に入園し、保育者や仲間と出会い、関わりを通して、自立心や他者への愛情や信頼、生活習慣や態度を身に付けていく。このように人格の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者及び教師の役割と責任は大きい。子どもたちが友だちと楽しく活動する中で共通の目的を見出して自然な形で協力することの良さを理解できるように役立つ技法、遊び、観察法等を学ぶ。

## 授業計画

- 1 幼児教育の目的と領域・領域「人間関係」
- 2 幼児教育の基本と保育者のさまざまな役割
- 3 乳幼児期の発達と領域「人間関係」①
- 4 乳幼児期の発達と領域「人間関係」②
- 5 子どもと保育者の関わり①
- 6 子どもと保育者の関わり②
- 7 遊びのなかのひととの関わり①  
課題レポートを提出
- 8 遊びのなかのひととの関わり②
- 9 生活を通して育つひととの関わり①
- 10 生活を通して育つひととの関わり②
- 11 個と集団の育ち①
- 12 個と集団の育ち②
- 13 ひととの関わりを見る視点  
自己の発達とひととの関わり
- 14 現代の保育の課題と領域「人間関係」
- 15 子ども同士の人間関係の形成を効果的に援助し促進するための

知識を習得する

## 授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。  
グループディスカッション後は担当教員がフィードバックを行う。

## 準備学修

Webで参照すること。

## 課題・評価方法、その他

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②グループディスカッション後は、担当教員によるフィードバックを行う。  
平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

## 欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

## テキスト

〔新訂〕事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係 萌文書林

## 参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」  
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

## 留意事項

日頃から人間関係力について考えておくこと。

## 教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・言葉			17633	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

## 授業の到達目標

乳幼児期の言葉の発達の概要を理解する。言葉を獲得し思いを伝え合うようになるための環境や遊び、指導援助の方法について学ぶ。発達を理解し、生活の流れに即した教材選定力や保育指導案の作成力と実践力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

## 授業の概要

乳幼児の言葉の発達を詳説し、視聴覚教材を活用して、さらにイメージを確かなものにする。そして、言葉の育ちを促す絵本やお話の教材研究や、保育指導案作成と模擬保育を行う。また、発達に即した教材制作を通して言葉を育む環境を整え、乳幼児の豊かな言葉の育ちと言語活動を支える保育を学ぶ。

## 授業計画

- 1 領域「言葉」について
- 2 乳幼児の言葉の育ちを支える要因
- 3 乳児期の発達と言葉の獲得
- 4 乳児期の言葉の発達を促す保育と教材
- 5 満1歳以上満3歳未満児の発達と言葉の獲得
- 6 満1歳以上満3歳未満児の言葉の発達を促す保育と教材
- 7 満3歳以上の幼児の発達と言葉の獲得
- 8 満3歳以上の幼児の言葉の発達を促す保育と教材
- 9 言葉の獲得において特別な支援を要する乳幼児への保育
- 10 豊かな言葉を育む児童文化（歌、手遊び、言葉遊び）（情報機器及び教材の活用を含む）
- 11 豊かな言葉を育む児童文化（絵本や紙芝居）
- 12 豊かな言葉を育む児童文化（人形劇やペープサート、パネルシアターやエプロンシアター等）
- 13 伝え合い分かり合う楽しい劇遊び（情報機器及び教材の活用を含む）
- 14 模擬保育と振り返り
- 15 まとめを行ってから試験をする

## 授業の方法

講義を主とするが、言葉を育む保育実践についての発表を加える。また、教材を制作し教育実習や保育実践にいかす。知識の定着を図

るため、小テストを行う。

## 準備学修

Webで参照すること。

## 課題・評価方法、その他

- ①絵本データシートや、リフレクションシートの提出を2回ずつ、  
模擬保育（乳児用・幼児用読み聞かせ指導案や教材の作成を含む）を課題とする。講義の中でフィードバックを行う。
- ②平常点50%、定期試験50%

## 欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点の減点とする。

## テキスト

岸井勇雄・無藤隆、湯川秀樹〔監修〕太田光洋〔編著〕『保育・教育ネオシリーズ20 保育内容・言葉 第三版』2018年（株）同文書院

## 参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

## 留意事項

保育の基礎技術を高めるため、わらべ歌や言葉遊び、絵本、幼児用テレビ番組などに日頃から親しんでおくこと。地域の図書館での企画展示やおはなし会などに関心をもち見ておくこと。

## 教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの健康と安全			17647	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士、私立保育園保育士			

## 授業の到達目標

保健的観点を踏まえた保育環境及び援助について理解する。関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。子どもの体調不良等に対する適切な対応や保育における感染症対策について具体的に理解する。子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月厚生労働省）

「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月 厚生労働省）

「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）等

## 授業の概要

子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごせるための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。保健的観点を踏まえた保育環境及び援助、関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。子どもの体調不良等についてに対する適切な対応（応急処置や救急処置及び救急蘇生法含む）、感染症対策について具体的に理解する。保育における保健的対応の中で3歳未満児、個別の配慮を要する子ども、障がいのある子どもへの対応について学ぶ。健康及び安全の管理の実施体制について具体的に理解する。

## 授業計画

- 1 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
- 2 保育における健康及び安全の管理
- 3 子どもの体調不良に対する適切な対応
- 4 救急処置及び蘇生法 感染症対策について
- 5 保育における保健的対応、健康及び安全の管理について
- 6 小児救急法【演習】

- 7 小児救急法【演習】
- 8 まとめ 定期試験

## 授業の方法

講義及び演習を中心とする。グループワークも取り入れる。

## 準備学修

日頃より衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも留意する。事前に必ずテキストを熟読しておくこと。

## 課題・評価方法、その他

平常点50% 定期試験50%

## 欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

## テキスト

「子どもの健康と安全」 ななみ書房

## 参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説」授業時に随時紹介する。

## 留意事項

演習については事前に連絡する。小児救急法(演習)の参加を必須とする。欠席の場合は別途課題提出。

## 教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの食と栄養			17650	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士、私立保育園保育士			

## 授業の到達目標

子どもの発育・成長に伴う食と栄養の基本を理解し、自ら考え、現場で対応できる力をつける。子どもの食生活がその後の人生の基盤となり身体が育成されることを学び、適切な食生活の在り方を指導できる力をつける。保育者は、子どもに最も近い距離にあり、多くを伝え、学ぶ機会を与えることの出来る立場となる。特に学ぶべきことは、栄養・食生活・身体の発育の知識はもちろんであるが、その知識を思いやりを持って現場で伝える実践力を養うことにある。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）を養う。

## 授業の概要

乳幼児期は、食生活の基礎が形作られる時期であり、子どもが健康な体を育成するためには食生活の正しい習慣付けは重要である。また、小児期の栄養は、保育者に委ねられることから、保育者が正しい栄養の知識と摂取方法、身体の仕組みおよび発達などを理解する必要がある。子どもの段階的な発育・発達を的確に捉え、その時期に必要な食生活と栄養について、現場で指導出来るように、多角的な栄養・健康の知識のみならず、自ら考える力や、実行する力も養うための発表形式の演習も取り入れる。食育基本法や児童福祉施設における食生活の現状や課題、及び特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養について理解し対応出来る知識および方法を学ぶ。

## 授業計画

- 1 保育における子どもの食と栄養
- 2 子どもの心身の健康と食生活
- 3 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
- 4 食事の摂取基準と献立作成・調理の基本
- 5 胎児期、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活(1)
- 6 胎児期、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活(2)
- 7 幼児期の心身の発達と食生活
- 8 学童期、思春期の心身の発達と食生活
- 9 食育の内容と計画および評価(1)
- 10 食育の内容と計画および評価(2)
- 11 家庭や児童福祉施設における食事と栄養(1)
- 12 家庭や児童福祉施設における食事と栄養(2)
- 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(1)

- 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(2)
- 15 子どもの食生活の現状と課題 まとめ

## 授業の方法

講義および実践演習により行う。担当者による発表形式も取り入れる。

## 準備学修

Webで詳細を参照すること。出された課題に前向きに取り組むこと。

## 課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%  
授業内での提出物の評価は平常点に入れる。

## 欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

## テキスト

「子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養」 萌文書林

## 参考図書

必要に応じて随時紹介する。

## 留意事項

毎回の出席と主体的な取り組みを求める。

## 教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（身体表現）	①/②	17653	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士、私立保育園保育士		

### 授業の到達目標

乳幼児が心をはずませ、のびのびと身体を動かし、表現の喜びを存分に味わえるための指導法を理解する。また、様々な表現方法を学習し、感性を磨き創造的な発想で身体を動かす力を身につける。さらに、情報機器や身体表現を促す教材の活用、環境構成の在り方は、表現活動に関する取り組みなどを学ぶ。このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

### 授業の概要

身体表現は、心と体を解放し創造性を引き出す意義ある活動である。乳幼児の素朴な表現を受け止め、内容や活動を広めたり深めたりする指導法や発達の過程、豊かな感性などについて情報機器も活用して詳説する。これらの学習を踏まえ、指導案を作成し、教材を活用した保育展開や環境を構成する力を身につける。まとめとして物語を通してイメージをふくらませ、グループで表現活動として発表する機会を持つ。

### 授業計画

- 1 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいと内容の理解、身体表現の意義の理解、表現と表出について
- 2 子どもの表現行動と精神発達（表出することを楽しむ、模倣性を体験する）
- 3 子どものからだと表現（発達段階に即した動き、基本リズム、模範表現）
- 4 身体の諸感覚を通し、身近な材料を用いた楽しい表現活動の発表と振り返り・課題レポート提出
- 5 季節や行事、伝統芸能、伝承あそびなどの体験と表現活動
- 6 創造性を豊かにする身体表現と小学校の教科との関連
- 7 子どもの想像力を養う表現活動と指導案の作成（情報機器や教材の活用を行う）
- 8 物語を題材にした創作表現のグループ発表と振り返りとまとめ

### 授業の方法

講義と演習を中心とする。学修のまとめとしてグループで表現活動の発表を行い、学び合いの機会をもつ。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法、その他

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
  - ②グループ発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。
- 平常点60% 課題レポート30% 指導案10%

### 欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

### テキスト

「実践 心ふれあう 子どもと表現」 株式会社みらい

### 参考図書

「表現言論」 萌文書林 等 授業時に紹介する。

### 留意事項

動きやすい服装で出席すること。

### 教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（音楽表現）		17655	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
南 夏世	選択	1			

### 授業の到達目標

子どもたちの表現する喜びや意欲を育てることができる指導者を目指し、子どもの発達や現代の環境等を踏まえて様々な音楽表現活動が展開できるよう教材を研究し、演習する。このクラスではKAISEI パーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

1. 領域「表現」の目標・内容を学び、活動内容や保育者としての配慮を理解する。
2. 音楽の基本となるリズムについて学習し、手拍子やリズム合奏および身体表現活動などの演習を通して、リズムの意義や活動を理解する。
3. 日々の活動に必要な歌唱教材を研究し、子どもの成長に合わせた活動内容や指導方法を修得する。

### 授業計画

- 1 領域「表現」について・子どもの成長と音楽的発達
- 2 リズム・リズム遊び
- 3 器楽合奏
- 4 器楽合奏
- 5 子どもの歌について（わらべうたと童謡）
- 6 子どもの歌の教材研究と指導法
- 7 指導案作成と実践
- 8 授業の振り返りとまとめ
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15

### 授業の方法

講義内容に則り、演習・発表を行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法、その他

- ①授業の課題ごとの発表や演奏に対し、フィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

### テキスト

「あそびうた大全集200」 細田淳子著 永岡書店発行

### 参考図書

授業時に指示する。

### 留意事項

爪は必ず切ること。動きやすい服装で受講すること。

### 教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。



関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育指導法			17725	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	2	公立幼稚園教員			

## 授業の到達目標

幼児期の教育・保育の実践にあたり、基本となる教育内容の再認識と指導実践力の習得をめざす。この科目ではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

## 授業の概要

幼児期の教育の基本を再認識するとともに、視覚教材（PP）を通して、子どもの生活や遊びとはどのようなものか学ぶ。また教材研究と演習、指導案作成と模擬保育を通して、教師の役割について実践的な習得をめざす。

## 授業計画

- 1 幼児の生活と幼稚園の役割、幼児期の特性
- 2 幼児期の教育の基本（人格形成の基礎・環境を通して行う教育）
- 3 幼児期の教育の基本（5領域のねらい及び内容・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿・個々に応じた指導など）
- 4 幼児期の教育の基本（教師の役割、教職員間の連携）
- 5 教材研究と演習①ペープサート シナリオと教材の作成
- 6 教材研究と演習②ペープサート グループで協力し人形劇の完成
- 7 教材研究と演習③ペープサート 各グループの演習と評価
- 8 保育内容の指導実践①基本的な生活習慣の育成・安全教育
- 9 保育内容の指導実践②いろいろな行事、自然を取り入れた活動
- 10 保育内容の指導実践③保護者との連携、子育ての支援・預かり保育
- 11 保育内容の指導実践④小学校教育との円滑な接続
- 12 保育指導案作成と模擬保育①
- 13 保育指導案作成と模擬保育②
- 14 保育指導案作成と模擬保育③
- 15 幼稚園で実際の保育体験と振り返り

## 授業の方法

幼稚園生活の様子をPPやDVDを視聴しながら学修を進める。加えて教材作成、実技演習、グループディスカッションなどを通して、実践的な指導力をつけていく。

## 準備学修

Webで参照すること。

## 課題・評価方法、その他

①教材作成のもと指導案作成と模擬保育を行い、授業内で教員によるフィードバックを行う。

②平常点30% 演習30% レポート等の提出40%

## 欠席について

1回の欠席につき3点減点とする。

## テキスト

「幼稚園教育要領解説」（文部科学省）「保育所保育指針解説」（厚生労働省）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）「実践！造形あそび」（ナツメ社）「あそびうた大全集200」（永岡書店）

## 参考図書

「初等教育資料」文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について」文部科学省「幼児教育じほう」全国国公立幼稚園長会「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」（チャイルド社）

## 教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児理解の理論と方法（教育相談を含む）			17727	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士、私立保育園保育士			

## 授業の到達目標

幼児の実態に即し、生育環境や集団の中での育ち合い等の多様な環境を背景とした幼児理解の意義を理解する。また、幼児の発達や学びを捉える基礎資料となる観察、記録の基礎的事項、多面的な考察と分析の重要性を理解する。幼児のつまりぎ等の発達上の課題や保護者の多様な思いに対応する保育者の姿勢やカウンセリングの方法を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

## 授業の概要

幼児理解の意義と重要性を理解し、保育実践やエピソード記録、カンファレンスの実践を通して、幼児を多面的に理解する力を身に付ける。また、幼児の発達や生育環境など、幼児一人ひとりの実態に即した指導や、専門家を交えたチームでの対応方法、保護者の心情を理解した連携とカウンセリングマインドを基にした支援方法を身に付ける。

## 授業計画

- 1 保育の場における相談ニーズとカウンセリングマインド
- 2 子どもの発達理解と相談・支援
- 3 保護者理解とその対応(1)
- 4 保護者理解とその対応(2)
- 5 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり(1)
- 6 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり(2)
- 7 子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ
- 8 保育場面でのカウンセリング技法の活用(1)
- 9 保育場面でのカウンセリング技法の活用(2)
- 10 【演習】事例検討 保護者対応を想定したロールプレイから学ぶ支援の在り方
- 11 【演習】行動観察やエピソード記録を通した幼児理解(1)
- 12 【演習】行動観察やエピソード記録を通した幼児理解(2)
- 13 園・地域における専門家との連携による相談・支援
- 14 保育者の専門性と相談活動
- 15 まとめ

## 授業の方法

保育実践の事例を取り入れ講義を行う。グループ討議や演習を行

い、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

## 準備学修

Webで詳細を参照とすること。出された課題に前向きに取り組むこと。

## 課題・評価方法、その他

平常点50% 定期試験及び課題レポート50%

## 欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

## テキスト

「子どもの理解と保育・教育相談【第2版】」みらい

## 参考図書

「どの子にもあ～楽しかった！の毎日を」 ひとなる書房  
「やさしく学べる保育カウンセリング」 金子書房  
文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

## 留意事項

グループ演習等が多いため、毎回の出席と主体的な取り組みを心がけること。毎回の授業での振り返りシートの提出を求める。

## 教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子育て支援			17768	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士、私立保育園保育士			

### 授業の到達目標

保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者支援（相談、助言、情報提供、行動見本の掲示等の支援（保育相談支援））について、その特性と展開を具体的に理解する。保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例を通して具体的に理解する。

### 授業の概要

保育士の行う子育て支援の特性を理解し、実践事例を考察しながら、保育士の行う子育て支援の展開として、支援計画や環境構成、支援の実際・記録・評価・カンファレンスについて理解を深める。また、保育士の行う子育て支援とその実際として具体例を挙げ、双方向の討議を取り入れて意見交換できるようにする。様々な子どもに対する対応やその家庭に対する支援について理解する。まとめとして、「子どもの最善の利益」を保障するための6つの視点からこれからの子育て支援について考察する。

### 授業計画

- 1 保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援の必要性
- 2 子育て支援の基本について
- 3 環境構成を活用した子育て支援
- 4 子育て支援のむずかしさ
- 5 保育者の「役割の二重性」と子育て支援の葛藤
- 6 保育士の行う子育て支援の実例
- 7 「子どもの最善の利益」を保障するための6つの視点
- 8 まとめ 定期試験

### 授業の方法

保育実践の事例を取り入れ講義を行う。グループ討議等を行い、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

### 準備学修

Webで参照とすること。

### 課題・評価方法、その他

平常点50% 定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点の減点とする。

### テキスト

「保育の専門性を生かした子育て支援」わかば社

### 参考図書

授業内で紹介する。

### 留意事項

毎回の出席と主体的な取り組みを心がけること。地域の子育て支援について調べておくこと。

### 教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子ども家庭支援論			17759	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

### 授業の到達目標

子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。保育の専門性をいかした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。子育て家庭に対する支援の体制について理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養うとともに、K（思いやり）を考える。

### 授業の概要

家族の機能、家庭の意義や役割、少子高齢社会・男女共同参画社会における家族関係や家庭生活の変化、地域社会の変容、家族と家庭を取り巻く社会的・経済的状況について概観する。子ども家庭支援の意義と役割、保育士による子ども家庭支援の意義と基本、子育て家庭に対する支援体制や支援方法等について解説する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開や関係機関との連携を考える。

### 授業計画

- 1 子ども家庭支援の意義と必要性
- 2 子ども家庭支援の目的と機能
- 3 子ども家庭支援における保育士等の役割
- 4 保育士に求められる基本的態度
- 5 保育の特性と保育士の専門性をいかした子ども家庭支援
- 6 保護者との相互理解と信頼関係の形成
- 7 家庭の状況に応じた支援
- 8 地域の資源の活用と関係機関との連携・協力
- 9 子育て家庭の福祉を高めるための社会資源
- 10 子育て支援施策・次世代育成支援策
- 11 子ども家庭支援の内容と対象
- 12 保育所等利用児童の家庭への支援
- 13 地域の子育て家庭への支援
- 14 要保護児童等およびその家庭に対する支援
- 15 子ども家庭支援に関する現状と課題・まとめ

### 授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

### 準備学修

Webで参照とすること。

### 課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

欠席1回につき3点減点する。

### テキスト

松村和子編著『子ども家庭支援論』建帛社

### 参考図書

内閣府『少子化社会対策白書』  
授業中に必要に応じて指示する。

### 留意事項

「現代家族関係論」を先に履修しておくことが望ましい。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害児保育			17782	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士、私立保育園保育士			

### 授業の到達目標

- ①障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
  - ②個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
  - ③障害児その他の配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
  - ④障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
  - ⑤障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。
- 以上をライフステージを見通して理解する。このクラスは、KAISEI パーソナリティーK（思いやり）とI（知性）を考える。

### 授業の概要

障害児保育を支える理念を理解し、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの理解と保育における発達の援助について、個々の特性を具体例を挙げて理解を深めていく。また、子どもの保育の実践として、指導計画及び個別の支援計画の作成や個々の発達を促す生活や遊びの環境、子ども同士の関わりと育ち合いについて、実践例から考えていく。グループディスカッションを通して、意見交換を行い、発表を行う。

発表後、教員がフィードバックを行う。障害児その他の配慮を要する子どもの家庭支援について、具体例を挙げて解説する。最後に現状と課題について考察していく。

### 授業計画

- 1 障害の概念と障害児保育の歴史の変遷
- 2 障害児保育の基本と障害のある子どもの地域社会への参加、包容（インクルージョン）と合理的配慮
- 3 肢体不自由児の理解と援助
- 4 知的障害児の理解と援助
- 5 視覚障害、聴覚障害、言語障害児等の理解と援助
- 6 発達障害児の理解と援助①（ADHD）（LD）
- 7 発達障害児の理解と援助②（自閉スペクトラム症）
- 8 病弱、重症心身障害児、医療的ケアの理解と援助
- 9 その他特別な配慮を要する子どもの理解と援助
- 10 個々の発達を促す生活や遊びの環境
- 11 指導計画及び個別の支援計画の作成

- 12 子ども同士の関わりと育ち合い
- 13 家庭及び自治体、関係機関との連携①
- 14 家庭及び自治体、関係機関との連携②
- 15 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題

### 授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参加できる形式も採り入れる。

### 準備学修

日常生活の一コマを、一つの考え方にこだわらずに複数の視点で考えてみる姿勢を望む。

### 課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

### テキスト

「ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育」株式会社 みらい

### 参考図書

授業中に紹介する。

### 留意事項

国の障害者施策および事業に関心を持つ

### 教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害者・障害児心理学			17783	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

### 授業の到達目標

本講義では、障害をもつ子どもたちへの教育、障害理解のための心理社会的知識、特別支援教育の在り方を学ぶことを目的としている。「身体障害、知的障害及び精神障害の概要」と「障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援」について、特別支援教育の観点から学ぶ。このクラスは、KAISEIパーソナリティーK（思いやり）とI（知性）を考える。

### 授業の概要

特別支援教育の制度、背景、どのような取り組みがなされているのかを学ぶ。それだけでなく、障害理解のために必要な専門知識を身に付ける。それらを踏まえ、子どもの一生涯における発達と教育の在り方について考える。

### 授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 特別支援教育の現状
- 3 視覚障害の理解と特別支援教育
- 4 聴覚障害の理解と特別支援教育
- 5 言語障害の理解と特別支援教育
- 6 知的障害の理解と特別支援教育
- 7 発達障害の理解と特別支援教育1
- 8 発達障害の理解と特別支援教育2
- 9 肢体不自由の理解と特別支援教育
- 10 それぞれの障害の理解と特別支援教育1
- 11 それぞれの障害の理解と特別支援教育2
- 12 特別支援教育の変遷
- 13 生涯発達支援について1
- 14 生涯発達支援について2
- 15 まとめ

### 授業の方法

講義形式を中心に、受講者が実際の教育現場でどのように実践するかを考える時間を設ける。

### 準備学修

毎日テキストを30分程度、読む。

### 課題・評価方法、その他

考える時間を設けた後は、担当教員からフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

学内の規定に従う。

### テキスト

高橋 智 編著『インクルージョン時代の障害理解と生涯発達支援』（日本文化科学社）

### 教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小	17785	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
	選択	1	公立小学校教員		

## 授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。また、教育実習の成果と課題を振り返り、さらに身に付けるべき知識や技能等について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

## 授業の概要

教育実習に必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例や実践を通して、小学校教師の様々な仕事と職責について学ぶ。

## 授業計画

- 1 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、小学校教育実習を受ける前に
- 2 実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
- 3 実習中の心得（勤務、礼儀、言葉遣い、服装、持ち物）
- 4 実習中の心得（学級経営、給食指導、休み時間）
- 5 児童や教職員との接し方
- 6 実習記録の書き方
- 7 学習指導と生徒指導
- 8 算数科模擬授業（低学年）
- 9 算数科模擬授業（高学年）
- 10 教育実習の成果と課題

## 授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

## 準備学修

テキストの指定ページを予習したり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

## 課題・評価方法、その他

- ①指導案と模擬授業について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

## 欠席について

欠席は10点減点し、遅刻は3点減点する。

## テキスト

石橋裕子・梅澤実・林幸範『小学校教育実習ガイド』萌文書林

## 参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説』東洋館出版社

## 留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して授業に臨むこと。

## 教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導 I B		17813	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士、私立保育園保育士		

## 授業の到達目標

保育実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、自己評価を行い課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

## 授業の概要

実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「児童福祉施設とは」を理解し、機能と保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

## 授業計画

- 1 実習の意義・目的・概要について理解する。
- 2 各施設の役割と機能を理解する。①
- 3 各施設の役割と機能を理解する。②
- 4 施設実習の準備と心構えを理解する。①
- 5 施設実習の準備と心構えを理解する。②
- 6 実習における観察・記録・評価の仕方を理解する。
- 7 実習記録の書き方を理解する。実践及び実習に関する諸手続
- 8 実習についての心構え、留意事項などの確認（実習事後の御礼状の書き方なども含む）
- 9 事後指導における実習の総括と自己評価、課題の明確化

## 授業の方法

講義・演習・実践により進める。

## 準備学修

webで参照すること。

実習施設についての概要を事前に調べる。手あそびを数多く知るようにしたり、絵本の読み聞かせの練習をしたりする。

## 課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

## 欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。遅刻は3点減点とする。

## テキスト

「施設実習 パーフェクトガイド」 わかば社  
「【改訂2版】これだけは知っておきたい保育のマナーと言葉」わかば社

## 参考図書

あそびうた大全集 永岡書店  
手あそび百科 ひかりのくに  
実習の記録と指導案 ひかりのくに

## 留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかりと把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく。

## 教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。